

ベルクソン『物質と記憶』を解剖する

現代知覚理論・時間論・心の哲学との接続

平井靖史・藤田尚志・安孫子信 編

ポール＝アントワース・ミケル（米田翼訳）

三宅岳史

ジョエル・ドルボー（木山裕登訳）

藤田尚志

合田正人

ステイヴン・E・ロビンズ（岡嶋隆佑訳）

河野哲也

檜垣立哉

セバスチャン・ミラヴェット（山根秀介訳）

平井靖史

バリー・デイントン（岡嶋隆佑訳）

岡嶋隆佑

伊佐敷隆弘

エリー・デューリング（清塚明朗訳）

郡司ペギオ幸夫

書肆心水

はじめに

現在なお、モーゼス・ヘスをもじって言えば、英・独・仏語という「哲学的言語のヨーロッパ三頭制」が、哲学の世界を支配している。少なくともこの三つの言語のいずれかをほとんど公用語のように読み・書き・話すことが、それ以外の言語を母語とする哲学者の「世界標準」となっている。長い伝統と高い水準を誇るはずの日本の西洋哲学研究が、にもかかわらず、世界の哲学者たちによく知られていないという事実は、明らかにアウトプットの不足を物語っている。「翻訳大国」日本は、西洋哲学分野の収支においても、完全に輸入超過である。このような現状の中で、とりわけ若い哲学者たちは、すでに高名な独・仏・英の哲学者の「売れ筋」を日本に紹介するだけでなく（これはこれで必要な作業でもあり、また健全な反応でもある）、それを超えていったい何ができるのか、ということを切実な思考の課題として受けとめるべき時期に来ているのではないだろうか。地理的にも歴史的にも特異な「ずれ」を孕む日本の文化や言語という媒介を意識しつつ、その特異性を逆手にとって西洋哲学に独自のフィードバックをもたらすこと、しかしながら西洋文明に対置された一枚岩的な「東洋」や「日本」という観点の特殊性を強調するのではなく、日本というそれ自体複合的なプリズムを通して西洋の内部に走る無数の亀裂に注意を向けさせることには、計り知れない価値があるはずである。21 世紀の日本でベルクソンを読むという行為が、そのような新たな対話につながるか否か、それは私たち一人一人の手に委ねられている。

以上の一文を綴ったのは 2004 年のことだった¹⁾。あれから 12 年経った。事態はどれほど変わったのか。ある意味では、ベルクソン研究の外から、さらには哲学界の外から見れば、残念ながら、変化は微々たるものであったかもしれない。しかし私たちは確かに何事かを変革しようと志し、そのために力を尽した。空手形を切るつもりはない、そう書き記したのは 2009 年のこ

とだった²⁾。法政大学の安孫子信教授を中心として、私たちが立ち上げた「プロジェクト・ベルクソン・イン・ジャパン」（略称 PBJ）では、世界の代表的なベルクソン研究者と、日本人研究者が対等の立場で発表を行ない、直接議論し合える場を作り上げることを目指したのであった。

第 1 期の PBJ（2007-2009 年）では、刊行百周年を記念する世界各地の動きに呼応して、ベルクソン第三の大著『創造的進化』（1907 年）を取り上げた。2007 年 4 月にトゥールーズ第二大学で大規模な日欧ワークショップを行なった後³⁾、キックオフ企画として 10 月に法政大学・学習院大学・京都大学で『創造的進化』刊行百周年記念国際シンポジウム「生の哲学の今」を開催した⁴⁾。翌 2008 年 10 月には法政大学・明治大学で、地政学的な眼差しを湛えた第 2 回シンポジウム「東アジアにおけるベルクソン——『創造的進化』の受容と展開」を行ない⁵⁾、第 1 期最終年度たる 2009 年 10 月には、ふたたび世界全体に開くべく、法政大学・明治大学で第 3 回シンポジウム「生の哲学の行方」を開催して締めくくりとしたのであった⁶⁾。

それから 1 年を置いた第 2 期の PBJ（2011-2013 年）では、第四にして最後の大作『道徳と宗教の二源泉』（1932 年）を取り上げ、国際的研究ネットワークを構築・拡大しつつ、このベルクソンの「危機論稿」が提起する諸問題について、社会学者や宗教学者と共に多角的な検討を行なった。2011 年 10 月に法政大学・京都大学・九州産業大学で第 4 回シンポジウム「ベルクソンと災厄——今、『道徳と宗教の二源泉』を読み直す」⁷⁾。2012 年 10 月に法政大学・京都大学で第 5 回シンポジウム「反時代的考察——ベルクソンと 19 世紀フランス哲学」⁸⁾。そして、2013 年 11 月にフランス・パリの大学都市日本館で第 6 回シンポジウム「結びの考察——『道徳と宗教の二源泉』をめぐって」が行なわれた⁹⁾。

ここまでの研究の意図は三重であった。第一に、『創造的進化』や『二源泉』受容の実態を世界規模で確認すること。第二に、各地域の研究者とともに『創造的進化』や『二源泉』の現代的再評価を試みること。第三に、このモデルケースから出発して我々が抱える「西洋哲学研究」についての根深い了解を変革刷新すること。西洋哲学研究の基準は西洋にあり、フランス哲学研究のカノンはフランスにある、といったこれまでの暗黙の了解は、今後の哲学研究に対しては束縛と桎梏でしかない。セレモニー的な水準を脱して、本格的な共同研究を世界規模で組織することで、そうした状況を打破しようとする

試みは、当時のフランス哲学研究の分野においては、ごく散発的な幾つかの例外を除いて、ほとんど見られなかったが、この作業を自覚的かつ継続的に引き受けるという点が、PBJ の際立った特色であった。国際的研究シーンで対等のプレイヤーとして活動していく土壌を築くという中心課題については、上記シンポジウムおよびドイツ Olms 出版やフランス PUF によるその報告集の出版以外にも、リール市シテフィロへの招待（2013 年）、EU の正規教育課程 Erasmus Mundus の日本での開催など、これまでとははっきり異なる交流の成熟が果たされつつある。

「虚しいお祭り騒ぎ」という冷ややかなコメントがかつてあったことも事実だ。だが、研究者は批評家でも観客でもなく、舞台に上がって批評される役者である。そう常々考えてきたし、機会あるごとに述べてもきた¹⁰⁾。日本で、日本語でなされている「研究」は本当に世界の舞台に上げられるのかどうか、大切なのはそれを肌身で知ることであり、肌身で知る場を提供し続けることだ。「場」の意識、「制度」への眼差しを忘れてはならないと思う¹¹⁾。

先に、「ある意味では変化はほとんど生じなかった」と書いた。だが、別の意味では、やはり大きな地殻変動が生じていたのだ。国内で開催される国際シンポジウムの数は着々と増え、外国語での発表や海外誌への投稿も数を増してきており、少なくとも一部の若手研究者の間では、かつてのような一方通行的輸入業の姿勢は、確実に過去のものとなりつつある。私たちが蒔いた種は着実に大地に根付きつつある。安孫子信から科研および PBJ の代表を受け継いだ平井靖史が提示したシンポジウムとその成果たる本論集はまさにその何よりの証左である。最も難解と言われる第二の大著『物質と記憶』を取り上げ、現代諸科学の飛躍的進歩に伴い、より鮮烈な形でその哲学的な意義が浮かび上がってきた、バルクソン独自の知覚論・記憶論・心身論の徹底的な吟味・検証を試みる本書は、一方では英米系の分析形而上学と、他方では現代の認知科学・脳科学と大胆かつ緻密に接合しつつ、何よりも事柄そのものに果敢に飛び込んで議論しようとする気概に満ちている。私たちが暗中模索してきた道の果てには、思いもかけない続きが待っていた。目の前には、平井が鮮やかに切り開いて見せた新たな光景が広がっている。

藤田尚志

注

- 1) 「世界におけるベルクソン研究の現在」、『ベルクソン読本』所収、法政大学出版局、2006年、312-317頁。執筆したのは2004年であった。
- 2) 「ベルクソン研究の現在——サーヴェイ：フランス、英米、日本の現状」、『思想』1028号（2009年12月）、118-125頁。
- 3) Arnaud François（以下AF）、藤田尚志、Jean-Christophe Goddard、Pierre Montebello（以下PM）主導の「Ateliers euro-japonais sur *L'Evolution créatrice de Bergson*」。詳細はトゥールーズ大学哲学研究グループ ERRAPHIS のHPを参照。
- 4) Shin Abiko, Hisashi Fujita et Naoki Sugiyama（éds.）, *Disséminations de L'évolution créatrice de Bergson*, Georg Olms Verlag, coll. "Europaea Memoria", mai 2012. 参加者は、安孫子信、金森修、合田正人、杉山直樹、檜垣立哉、平井靖史、藤田、守永直幹、Frédéric Worms（以下FW）、Camille Riquier, PM, Jean-François Braunstein, Paul-Antoine Miquel（以下PAM）、AF, Michel Dalissier, John Mullarkey（英）（以下JM）、Michael Kolkman（英）、Michael Vaughan（英）、Suzanne Guerlac（米）。
- 5) 参加者は、安孫子、合田、杉山、檜垣、藤田の他、宇野邦一、神山薫、財津理、志野好伸、谷口薫、増田靖彦、松本力、AFの他、Roi Tchoue（韓）、Su-Young Hwang（韓）（以下SYH）、Ji-Seok Ryu（韓）、Han Hee-Jin（韓）、王礼平（中）。
- 6) Shin Abiko, Hisashi Fujita et Masato Goda（éds.）, *Tout ouvert : L'évolution créatrice en tous sens*, Olms, coll. "Europea Memoria", octobre 2015. 参加者は、安孫子、宇野、神山、合田、谷口、永野、檜垣、藤田、村山、FW, PAM, AF, SYH, JMの他、Jean-Louis Vieillard-Baron（仏）、Pete Gunter（米）、Elie During（仏）、Rocco Ronchi（伊）。
- 7) *Annales bergsoniennes* tome VI : Bergson, le Japon, la catastrophe, PUF, coll. « Epiméthée », février 2013. 参加者は、安孫子、合田、檜垣、杉村、平井、増田、藤田の他、岩野卓司、FW, AFの他、Arnaud Bouaniche, Paul Dumouchel（カナダ）、Johannes Schick（独）、Ghislain Waterlot（スイス）、Florence Caeymaex（ベルギー）、Caterina Zanfi（伊）、Ciprian Jeler（ルーマニア）であった。
- 8) 本シンポジウムの成果については、Olms出版より近々刊行される予定である。参加者は、安孫子、合田、村山、の他、中村弓子、菊谷和宏、村松正隆、小関彩子、伊達聖伸、伊東俊彦、小野浩太郎、PM, AFの他、Anne Devarieux, Claire Marin, Stéphane Madelrieux, Frédéric Keck, Sébastien Miravète（以下SM）。
- 9) 参加者は安孫子・合田・檜垣・杉村・平井・藤田の他、小林敏明、黒田昭信、FW, AB, AF, SMの他、Brigitte Sitbon-Peillon, Patricia Verdeau, Laurent Fédi, 張政遠（香港）、Alexandre Lefebvre（豪）。
- 10) 拙稿「観客でも批評家でもなく」、『現代思想』、2007年5月号、246頁。
- 11) 現在の日本の大学を取り巻く状況に対する原理的かつ実践的な哲学的考察が哲学界にとって喫緊の課題と考えるゆえんである。私が西山雄二らとともに取り組んできた「哲学と大学」プロジェクト——その成果は2009年の『哲学と大学』と2013年の『人文学と制度』（いずれも未来社）に結実した——は決して PBJ の着想と無縁ではない。

目次 ベルクソン『物質と記憶』を解剖する

はじめに 5

序論 平井靖史 15

第1部 記憶と心身問題（科学認識論・汎心論・局在論） 22

第2部 知覚（アフォーダンス・認知科学・現在意識） 25

第3部 時間（分析形而上学・物理・出来事存在論） 30

第1部 記憶と心身問題

（科学認識論・汎心論・局在論）

1-1

外界の存在について ポール＝アントワヌ・ミケル（米田翼訳） 42

1. 古典的哲学の問題 42
2. 科学主義的な形而上学の袋小路 45
3. 現象学には何ができるか？ 48
4. ベルクソン哲学の難問とその解決 51

1-2

ベルクソンと「記憶の科学」の台頭 三宅岳史 64

はじめに 64

1. 実験心理学と『物質と記憶』 65
 2. 記憶の局在論と『物質と記憶』 67
 3. リボーの精神的力動論と『物質と記憶』 73
- まとめ 76

1-3

現代から見るベルクソンの二元論 ジョエル・ドルボー（木山裕登訳） 84

導 入 84

1. 心についてのベルクソンの立場 84
2. 相互作用説的二元論を支持する一般的な議論 86
3. 相互作用説的二元論に対する一般的な反論と、それへの応答 89
4. リベットの实验 90
5. 二元論と記憶 92

《コラム》ベルクソンの未来	藤田尚志	101
---------------	------	-----

1-4

記憶と歴史——リクールからのベルクソン再読	合田正人	105
-----------------------	------	-----

0.	105	1.	106	2.	111	3.	114
----	-----	----	-----	----	-----	----	-----

第2部 知 覚

(アフォーダンス・認知科学・現在意識)

2-1

ベルクソン、ギブソン、そして外界のイメージ

スティーヴン・E・ロビンズ (岡嶋隆佑訳)	118
-----------------------	-----

要 旨 118

1. イメージこそがハード・プロブレムである 118
2. イメージの起源についてのベルクソンのモデル 120
3. ギブソン——調節のための情報 124
4. ベルクソン——心の計算機モデルへの代替案 126
5. ベルクソンのモデルにおける時間 127
6. 時間スケールと不変法則 131
7. 主観と客観と時間 132

2-2

ベルクソンと生態心理学——身体の記憶と宇宙の記憶	河野哲也	138
--------------------------	------	-----

1. 序 論——記憶は脳の機能であるか 138
2. ベルクソンの知覚理論とJ・J・ギブソン 139
3. ベルクソンの二つのタイプの記憶 143
4. ギブソンの奥行き知覚 146
5. 宇宙における記憶の存在論的地位 149
6. 結 論 151

《コラム》アフォーダンスとベルクソン	檜垣立哉	154
--------------------	------	-----

2-3

哲学と認知心理学を定義する

——ベルクソン哲学の知覚理論とブルーナーの認知心理学の分析を通して

セバスチャン・ミラヴェット (山根秀介訳)	159
-----------------------	-----

1. ブルーナーの認知的知覚理論と認知心理学の定義 159
2. ベルクソンの知覚理論と哲学の定義 161

2-4

現在の厚みとは何か?——ベルクソンの二重知覚システムと時間存在論

.....平井靖史 175

1. 現代認知科学における二重視覚システム仮説とベルクソンの再認論 176
2. 直接知覚説——事物と知覚の存在論的剥離を回避する 181
3. 「拡張した心」、空間のみならず時間において 184
4. 潜在的過去による被覆機能 189

第3部 時間

(分析形而上学・物理・出来事存在論)

3-1

中立一元論、時間経験、そして時間——ベルクソンへの分析的視座

.....バリー・デイントン（岡嶋隆佑訳） 206

1. 初期（および近年の）分析哲学——ベルクソンの知られざる役割 207
2. 持続を（部分的に）脱神秘化する 215
3. 時間と時間経験 227

《リプライ論文》

ベルクソンにおける収縮概念について——デイントンおよび平井へのリプライ

.....岡嶋隆佑 239

はじめに 239

1. 収縮概念の背景 239
 2. 収縮の三つの働き——総合、凝縮、縮約 241
 3. 収縮概念の解釈——振動重複モデル 243
- 終わりに 247

3-2

何が記憶を一系列に並べるのか?伊佐敷隆弘 252

1. ベルクソンの過去論の3つの特徴 252
2. 「日付」という概念とベルクソンの現在論 254
3. 「日付」についてのベルクソンによる説明 258

4. 出来事とはいかなる存在者か 262
5. 過去に関する半実在論 266

3-3

共存と時間の流れ エリー・デューリング（清塚明朗訳） 270

1. 時間の哲学の弁護 270
2. 「時間」と「持続」 271
3. ベルクソンによる二重の時間理解 272
4. ホワイトヘッドの過程時間 274
5. 時間という形式——カントへの迂回 275
6. 現在主義と永久主義を越えて 279
7. ラブラスの霊 280
8. 過去はどのような意味で「存在する」のか 283
9. 過ぎ去るものは何か？ 286
10. 映画の錯覚の再考 287
11. もろもろの同時性——双子 288
12. 共存と共時性 291
13. パースペクティブの重要性和相対的な時間 293
14. 結 論 296

《コラム》持続と時間 三宅岳史 306

3-4

知覚と記憶の接続・脱接続——デジャビュ・逆ベイズ推論

..... 郡司ベギオ幸夫 311

1. はじめに 311
2. ベルクソン・ギブソン・受動意識 312
3. デジャビュ・純粹想起と純粹知覚 318
4. ベイズ推論と逆ベイズ推論 323
5. 議論および結論 328

《コラム》ベイズ推論と逆ベイズ推論 三宅岳史 332

《特別付録》

われらベルクソン主義者 京都宣言

……………エリー・デューリング ポール＝アントワヌ・ミケル（藤田尚志訳） 337

1. 「われらベルクソン主義者は……」 337
2. 拡張ベルクソン主義のために 338
3. 非＝思弁的な経験論——事実の線を追うこと 340
4. 存在論的コミットメントと批判的距離——科学との関係 342
5. 還元主義でもなく、創発主義でもなく 345
6. 潜在的なものと可能的なもの 347
7. 拡張された論理のために 348
8. 現在主義と永久主義 349
9. 持続と空間の関係を再検討する 350
10. 共存の問題——ローカルなものとグローバルなもの 351
11. 仮構作用と創造——科学とともに生き、思考すること 354
12. 跋 359

後書きにかえて 367

謝 辞 372

人名索引 373

事項索引 378

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

序 論

平井靖史

本論文集は、2015 年 12 月に東京と京都で開催された国際シンポジウム『物質と記憶』を解剖する——ベルクソンと現代知覚理論・時間論・心の哲学」を元にしたものである。全 12 名の提題者の論考に加え、各所に「コラム」や「リプライ論文」を配置することで、議論のポイントを掴みやすいように配慮した。

シンポジウムのタイトルにあるように、この企画の狙いは、ベルクソンの主著にして最難関の書と言われる『物質と記憶』を、現代の分析形而上学および諸科学理論の見地から検証することで、その哲学的ポテンシャルを徹底的に吟味する点にある。実を言えば、原著の「実証的形而上学 *métaphysique positive*¹⁾」的な性格からして、同様の現代科学との接合の試みは初めてのものではない²⁾。だが、今回の試みは、以下に述べる環境の変化により、1980～90 年代に行われたそうした先行研究とは、まったく異なる新しい意味を持っている。

『物質と記憶』はなぜ読まれなかったか

こうした事情を説明する前に、まずは原著書そのものの複雑な構成について確認しておきたい。『物質と記憶』という書物がわれわれに提示するのは、端的に言えば、「心身問題³⁾」を（ふつうこれとは独立であると思われるがちな）「時間との関連において *en fonction du temps*⁴⁾」全面的に構成しなおす、という試みである。だから主要トピックだけ見ても、〈心身問題〉、そして元々これに密接にかかわる〈認識論〉に加えて、〈時間論〉と、単独でも厄介な「骨太」なテーマ群が複雑に絡んだ構成になっている。当然、イギリス経験論やカントなど多くの哲学史的言及を含む。

だがこれに加えてこの書にきわめて特徴的なのが、こうした見るからに形而上学的な諸論点を、緻密な実証的研究の延長線上で描き出しているという

点である。神経組織についての生物学的知見、失認や失語症の病理学、注意・記憶・一般観念の心理学。力や原子についての物理学。再認論を展開する『物質と記憶』第2章だけで数えても、言及される科学者は70名にも及ぶ⁵⁾。これほど詳細な経験科学的探求と、大胆な形而上学的テーゼは、いったい、この書のうちでどのようにして貼り合わせられているのか。困ったことにこれがまったく自明でない。その結構についての個別具体的な究明は、本書コラムで檜垣が切実に訴えかけるように、まったくと言っていいほど手つかずのまま来てしまったのである⁶⁾。少なくとも確言できることは、両者の関係は諸科学からの単純な帰納でも、逆にすでにできあがった「持続」というアイデアの一方的な適用でもない⁷⁾ということくらいだ（じっさい、哲学者自身が自覚的にこうした方法論を批判している⁸⁾）。さらに、これに追い打ちをかけるように、多くの基礎語（知覚、記憶、存在、過去等）の指示対象について、こじれた概念的事情が介在しているということ、ベルクソンによって採用された用法がことごとく奇異なものにしか見えず、かつまた融通無碍であること⁹⁾、また、議論を駆動するロジック自体もつかみ所がないこと¹⁰⁾など、多くの方法論的な不透明性がこの書の受容にたいする障壁となってきた。

じっさい、非専門家への普及度という点で「現象学」の置かれた状況と比較してみれば、違いは歴然としている。ベルクソンと同時代の出自にして同じくいわゆる「大陸系」哲学でありながら、現象学は、近年の Gallagher や Zahavi らの尽力も功を奏し¹¹⁾、すでに認知科学や神経科学との連携的な探求の次元に入っており、各分野で豊富な貢献をもたらしている。上述の事情に鑑みれば、むしろ『物質と記憶』は、現象学によって乗り越えられたどころか、まだ学的普及の域にすら到達していないと言うべきかもしれない¹²⁾。

高次元科学形而上学的パズル

『物質と記憶』が含む個々の（一見奇抜な）主張を、試みに、系列ごとに取り並べてみよう。

- a. 「知覚は物質の部分である」、「物質は中和された意識である」、「脳はクオリア感覚質も表象も原理的に産み出し得ない¹³⁾」、「感覚質は空間的延長を占める」、「神経の反応遅延が意識のトリガーとなる」といった物質と意識にかかわる諸テーゼ。
- b. 「身体運動が再認の基礎をなす」、「想起は再認を含意しない」、「認知に

において細部は全体の後に埋められる」、「解釈はボトムアップ的には成立し得ない」などの認知にかんする理説。

- c. 「夢は記憶の弛緩である」、「知覚は記憶にはならない」、「心は過去で出来ている」、「同じ記憶が無数に異なる仕方て想起される」、「記憶は脳のうちに保存されない」といった過去と記憶にまつわる主張。
- d. 「現在は実在の最新断面である」、「すべての過去は残存する」、「運動は分割不可能である」、「タイムスケールのシフトが自由をもたらす」などの時間と自由の諸論点。

なるほど従来のパラダイムでは持て余さざるをえなかっただろう、そう唸られるテーゼ群ではないだろうか。ベルクソン研究者ですら、こう一覽にされると正直目が回りそうなほどだ。しかも、これら複数のラインは互いに複雑に絡み合って緊密な結び目をなしている。1896 年の刊行から 120 年の歳月が経つにもかかわらず、ノーベル賞哲学者の主著としての名目的な知名度に比して、これら具体的論点の普及度に（ベルクソンの他著作と比べても）異例なほどの落差がみられるのには、単に不幸な歴史的経緯¹⁴⁾には帰することができない、こうした内容的な要因があることを、はじめにしっかり把握しておく必要がある。

ところが、ここへきてその状況が変わりつつある。前世紀末からの 20 年あまりで飛躍的に進展した諸科学と「分析形而上学」という二領域のおかげで、長らく消化困難に留まってきた『物質と記憶』の諸テーゼが、真に検証可能なものとして扱うことがようやく可能になってきたのだ。しかも、錯綜を解きほぐす鍵となるのは、やはり〈時間〉である。科学と哲学のそれぞれにおいて、まず当該領域自体が勃興したうえで、ついで 2010 年頃を境に一気に〈時間〉という問題の枢要性が認識されるようになってきたという、二段階の経緯がある。以下に順次辿ってみたい。

1990 年代以降の諸科学における意識と時間

まずは諸科学、とりわけ「意識の科学」の飛躍的進展である。1990 年前後のクリック、コッホやエーデルマンらの先駆的仕事により、長らくタブー視されてきた意識の科学化の試みが花開いたかと思えば、その後の脳画像装置の画期的発達の助けで一気呵成の進歩を遂げた。併せて 2012 年¹⁵⁾以降には、ディープラーニング深層学習を備えた人工知能が飛躍的進展を遂げるなど、知能の物理的基盤を

捉える工学的な画角も質的に変貌した。とりわけ深層学習と「構成論的アプローチ」¹⁶⁾の組み合わせは、意識が現象学的な記述と実験的な分析の対象でしかありえなかった時代には予想できなかった多くの視座をもたらしている。そのような中、ガザニガ、トノーニ、ドゥアンヌら科学者達の手により2010年頃から立て続けに魅力的な仮説形成が果たされ、意識の発生機序に迫る理論的なブレイクスルーが生じつつある状況にある。

そこでにわかに課題として浮かび上がってきたのが、まさに時間概念の再吟味なのである。認知神経科学者マイケル・S・ガザニガは、2011年の書物で、意識の発生機序の解明にある種の「タイムスケール」の概念が重要な役割を果たしていることを指摘した¹⁷⁾。情報理論を援用するトノーニとマッスィミーニは、脳内神経の同期発火よりもむしろ反応の時間的遅延が、意識の条件となっていることを発見した¹⁸⁾。行動経済学の創設者であるカーネマンは、ベストセラーとなった『ファスト&スロー』（これも2011年）において思考の二重プロセスモデルを提唱し、並列的で迅速なプロセスに比して、逐次的で「遅い」プロセスこそが意識的であると論じる¹⁹⁾。物理学者ミチオ・カクは、物質から人間まで意識の諸レベルをフィードバック・ループの漸次的拡張と捉え、時間次元への大幅な拡張が高度な意識を可能にしたと述べる²⁰⁾。異口同音に語られるこうした最新の主張は、「意識は遅いすなわち時間的引き延ばしを条件としており、物質が無意識であるのはその時間スケールが最短である（同時性で近似できる）ためである」という『物質と記憶』の中心テーマに光を投げ返さないわけにはいかない²¹⁾。またループ量子重力理論の提唱者リー・スモーリンは、長らくブロック宇宙説が主流であった物理学に、「流れる時間」の復権が重要であることを、2013年に公刊された『タイム・リボーン』で訴えている²²⁾。認知心理学の分野では、ブロックらによる現象的意識とアクセス意識にまつわる問題提起を通じて、現在の時間経験の構造解明が、意識のとらえ方を左右することが一般的に認知されつつある²³⁾。このように、「意識」の科学的解明の試みの随所にあつて、鍵となる争点だが、期せずして「時間」という問題へ——しかも極めて『物質と記憶』的な論点へ——と収斂しつつあるのである²⁴⁾。

分析形而上学における心と時間

もう一つの背景をなすのが、「分析形而上学」の隆興と、そこでの時間論を

めぐる状況である。詳しくは本書所収のバリー・デントンによる解説（207頁）を参照していただきたいが、唯物論的傾向の強かった従来の英米系の分析哲学自身の内部から、クオリアや心的表象の「難問題」^{ハード・プロブレム}を巡って「心の哲学」が旗揚げされ、心身問題が哲学の現在の課題の一つとして再認識されるようになったのが、「意識の科学」にやや遅れた1990年半ばである。「心」ばかりではない。「存在」、「神」、「自由」、「普遍」、「様相」、「美」など、一昔前の「分析哲学」ならむしろ批判の対象としていたような「形而上学的」な論題にたいしても、徹底した概念錬磨を武器とする分析的アプローチが有効であることが、多くの実績をともなって明証的なものとなった²⁵⁾。このことは、近世哲学や現象学などにおいて、洗練された議論枠組みと高い解像度を誇る諸概念を携えた形で包括的な再解釈を促し、従来の「英米系 vs. 大陸系」といった不毛な対立の時代とはもはや隔世の感を呈している。

ところが「時間」についてはすれ違いが長引いた。ジョン・マクタガートの1908年の論文に端を発し、ベルクソンや現象学とは独立に形成されてきた英語圏の時間論は、多くの論争を通じていち早く成果を見せ、20世紀中にはすでに物理学者達によって実際に用いられる段階に至っていた。だから、時間それ自体を論理的に明晰な仕方であらうために必要なさまざまな概念的ツール（三次元・四次元主義、現在主義・永久主義・成長ブロック宇宙説、A理論・B理論、等々）を提供する準備は整っていたわけだが、残念なことに、大陸の時間論との接点は現実にはほとんど結ばれることなく20世紀は過ぎてしまう。

だがその状況も、2000年に『意識の流れ』を出版したバリー・デントンの登場によって変わることになる。「時間それ自体」の存在論的構造を論じる上記の系譜とはまた別に、「時間経験」の意識構造についての（延長主義 *extensionalism* 対把持主義 *retentionalism* という）新たな論争軸を浮かび上がらせ、時間の分析形而上学のうちにもうひとつの地平を開拓したのである。ごく簡単に言えば、意識によって表象される現象内容が時間幅を持つだけなのか、これを表象する意識存在そのものが時間的に延長しているのか、という対立である。後者（延長主義）を採るデントンの明快な主張は、2011年頃を境に、時間論者達の間に白熱した論争を巻き起こすにいたった²⁶⁾。しかも、特筆すべきことにデントンは、この解釈線を、ウィリアム・ジェイムズやフッサール——両者は共にベルクソンと直接的にして密接な思想的影響関係

を持つ！——らの伝統的テキストの綿密な検証から、導き出したのである。ドーバー海峡を挟んでほぼ同時期に登場しながら、思えば奇異なほどのすれ違いを見せてきた英仏の時間論的伝統を、表面上の語彙の食い違いや、不幸な思想史的バイアスに惑わされることなく、構造的な仕方ですき合わせる論争の土俵は、今やすっかり整ったと言えよう²⁷⁾。

形而上学を科学する

さらに付け加えれば、こうした科学と哲学双方における劇的な変化は、当然、互いに無関係というわけに行かない。心をめぐる科学的状況は、重層的な仕方です、確実に次の議論パラダイムへと移行しつつあり、哲学における認識論および心身問題の再定式化を促している。こうした状況に呼応する形で、2013年にRossらの編纂による『科学的形而上学 Scientific Metaphysics』²⁸⁾が登場した。ある論者は、この動きを、思弁的な傾向の強い「メタ形而上学 Metametaphysics」と対照して説明しているが²⁹⁾、「実証的形而上学」を標榜するベルクソン自身はと言えば、まさに自らが前者に属することを当時から宣言していたわけである³⁰⁾。かくして、『物質と記憶』という高難度の科学形而上学的有機組織を「解剖」する鍵が出揃った今こそ、上に列挙した個別の諸テーゼについての掘り下げた検討が求められている。

2015年に『ベルクソン、複雑性、創造的創発³¹⁾』を出版したDavid Krepsは、20世紀の諸科学に基づいてなされてきたベルクソン批判が必ずしも適確なものでなかったことが、昨今の知見によって次々と明らかになりつつあることを、豊富な具体例を挙げて指摘している。そうしたなかで、むしろベルクソンの諸テーゼの（これまでは認められてこなかった）先見性が、——いわば一巡するかたちで——際立つ状況になってきていると言うのである。「ベルクソンは、過去に多くの批判を受けてきたし、彼の仕事のうちには、少なくとも著者の目には時代の試練に耐えなかったと見える要素もあるし、極めて論争的に留まる議論もある。にもかかわらず、この間に相当の発展を見せた哲学の分野（とりわけポスト構造主義）でも、また科学的探求の分野（例えば現代神経科学の発見のいくつか）においても、ベルクソンのアイデアは、以前なされた批判にもかかわらず、彼を非難する人々の考えよりもはるかに精確なものであることが証明されてきている」と、Krepsは状況を端的に記述している。ベルクソンの諸テーゼへの従来の批判が限定的なものに留まっ

ているという同様の指摘は、居永や Barnard によってもなされており³²⁾、こうした数々の指摘は、かつてドゥルーズの強力な読解によって哲学内部で巻き起こされたベルクソン再評価の動きとは、質的に異なることを示している。

現代形而上学についての教科書も執筆しているデントンには、これまでベルクソンに対するまとまった言及はなかった。その彼が、本書所収の論考の冒頭では、以下のような踏み込んだ評価を示している。「ごく控えめに見積もっても、近年の分析哲学においてベルクソンの著作は全く看過されていると言って良いだろう。私はこの状況が近い将来変わるのかどうかを予想するつもりはないが、それが変わるべきであることは明らかだ。現在の分析哲学の関心の中心部に位置するいくつかの問題——心的なものと物的なものの関係、時間の本性、意識の時間的なあり方にかんする問題——について、ベルクソンは興味深いことを言っていただけでなく、彼が言わざるを得なかったことのいくつかは真理であることが明らかになるかもしれないからである」³³⁾。

ベルクソンを「使う」ために

だが併せて指摘しておかなければならないことは、もしこうした「先見性」がすべて「盲信」による確証バイアスの効果ではないとすれば、ベルクソン哲学は単に思想史的な興味の対象にとどまらず、現代の論争において、有効かつ魅力的な代替案を呈示しうる、現役の理論的プレイヤーとして貢献するはずだ。今回のシンポジウムに参集した執筆陣は、この態度で一致している。デントンの証言を引いておこう。「私の考えでは、もう一つ、同じくらい明らかなことがある。それは、意識の問題に対してベルクソンが与えた解決はたんなる歴史的関心事ではない、ということだ。心的なものと物理的なものとは根本的に異なる種類のものではない、という統一的かつ一元的な世界観に関心があるすべての人にとって、ベルクソンが先鞭をつけたアプローチは十分考察に値するからだ」。

本書は三部構成になっており、三日間にわたって行われたシンポジウムでの発表順に各論考を収録した。「記憶と心身問題」をテーマに掲げる第1部には、以降の議論を条件付ける考察が並ぶ。以下、順に概観してみよう。

第1部 記憶と心身問題（科学認識論・汎心論・局在論）

1-1. ポール＝アントワヌ・ミケル「外界の存在について」

『物質と記憶』は心身問題の書であると述べた。しかしその第1章は、有名なイマージュ概念の導入によって、「観念論 vs. 实在論」という古典的な「認識論」の枠組みを脱構築する作業から着手される。通常は外界の表象は「心」の第一にして主要な能力と考えられるから、これと物質世界との関係を論じるのは、自然なことで推察されるかもしれない。しかし、実際にベルクソンが示すのは、外界認識（知覚）が、心的要素抜きで説明されうる、つまり、環境と身体との生態学的な連関によっていわば客観的に規定されうる、ということであった³⁴⁾。したがって、客観世界が向こうにあり、これを認識する心的世界がこちらにある、という描像そのものへの反省を、ベルクソンははじめからわれわれに課していることになる。この根本的にして徹底的な、認識論的「二世界」説の刷新を主題化するのが、冒頭を飾るミケルの論考である³⁵⁾。

ベルクソンにおいては知覚が脱主観化されるのみならず、他方で、物質世界のいわゆる自足性もまた問題化されることになるのだが、科学認識論の観点から当初より一貫してベルクソンを重視するミケルが注目するのは、まさにこの点である。頻繁に見落とされがちであるが、（物質の認識が、ではなく）物質自体がそれとして同定されるために、その経験可能性が原理的な「制約」として課せられるということに、ミケルは注意を喚起する³⁶⁾。「思考の泡」と「物質の泡」、その相互の「転換」という目を引く措辞を駆使しつつ、ともするとカント的にもみえる問題設定において暗に想定されがちな両者の乖離や、一方への他方の還元の罣を、ともに慎重に避けながら、非・排中律的な論理構造を批判的にあぶり出し、新たな定式化へと結晶化させていく歩みは、困難の核心を直截にえぐり出す、きわめて挑発的なものである。

1-2. 三宅岳史「ベルクソンと「記憶の科学」の台頭」

『ベルクソン 哲学と科学の対話³⁷⁾』の著者である三宅は、記憶の諸科学という文脈の中での『物質と記憶』の位置づけを集中的に論じる。ハッキングが『記憶を書きかえる——多重人格と心のメカニズム』でフーコー的な手法を用いて再現してみせる、『物質と記憶』前夜、すなわち19世紀後半におけ

人名索引

カナ表記ブレは代表的なものにまとめた。欧文表記でも記されたものは併記した。欧文表記でのみ記されたものは人名索引最後の「欧文」の項に記載した。

あ

アームストロング Armstrong, D. 24, 97, 98
 アインシュタイン 272, 293, 301, 303, 351, 353, 354, 365
 アウグスティヌス 270
 青山拓央 37
 秋葉剛史 37, 98
 アキレス 128
 浅野光紀 233
 アトラン 357
 アドルフ Adolphe, L. 362, 363
 安孫子信 170, 362, 363, 370-372
 アリストテレス 195, 337, 361
 アルチュセール 358
 アルノー 70, 80
 アルバックス 76, 112
 アレッキ Arecchi, F. T. 34, 325, 331
 イエルシャルミ 112
 池谷裕二 198
 伊佐敷隆弘 39, 31, 32, 195, 252, 268
 イザンパール 365, 366
 石井敏夫 38, 195, 198, 370-372
 出隆 361
 居永正宏 21, 38
 ヴァイツェッカー 109
 ヴァレラ 136
 ヴィスマン Wysman, J. W. H. 68, 69, 79
 ウィトゲンシュタイン Wittgenstein, L. 207, 276, 300, 369
 ウィニコット 364
 ウィリアムソン 207, 232
 ウィルブランド 163, 164
 ウィンスロー 80
 ヴェイユ 114
 ウェーパー 172, 173
 ヴェルトハイマー 172
 ヴェルニッケ Wernichke, C. 23, 68, 70-72, 79, 81
 ヴォアザン 80
 ヴォルムス Worms, F. 346, 362, 364, 368
 ヴント Wundt, W. 23, 66, 67, 79, 81, 82, 162, 174
 エウリユリケ 52
 エーデルマン Edelman, G. L. 17, 141, 153
 エクスナー 28, 166, 241, 243

エクルズ Eccles, J. 95, 97, 99
 エディントン Eddington, A. S. 279, 301
 エビングハウス 65, 66, 80, 177
 エレンベルガー Ellenberger, H. 78, 83

太田紘史 36, 196, 237
 岡嶋隆佑 31, 239, 250
 小口峰樹 36
 荻阪直行 196, 200
 オデュッセウス 60
 オリーガン O'Regan, J. K. 136
 オルフエウス 52

か

カーネマン 18
 ガイヨン Gayon, J. 364, 368
 カク Kaku, M. 18, 36
 ガザニガ Gazanigga, M. S. 18, 36, 195
 ガタリ Guattari, F. 63
 金森修 367, 368, 370, 371
 兼本浩祐 38
 カプラン Kaplan, D. M. 45, 46, 61
 カルナップ 47
 カンギレム 65, 342, 348
 カント Kant, I. 15, 22, 42, 108, 118, 164, 165, 174, 200, 213, 219, 270-272, 274-278, 288, 297, 299, 300,
 木島泰三 197
 ギブソン Gibson, J. J. 27, 38, 118, 119, 124, 125, 135, 138, 139, 141-143, 146-149, 151-154, 311-313, 315, 331
 キム Kim, J. 46, 61, 97-99
 キャッテル 66, 67
 ギャノン 179
 キュルベ 66, 67

クスマウル Kussmaul, A. 68-70, 73, 78, 82
 グッドマン Goodman, C. C. 160, 170, 172
 グラスハイ 81
 倉田剛 37, 98
 クリック 17
 クレイン 96, 232
 樽沼範久 139, 153
 クワイン Quine, W. V. O. 47, 61, 207, 357
 郡司ベギオ幸夫 33, 34, 39, 100, 311, 328, 331

ゲイバー 121
ゲーデル 355
ケーラー 172

合田正人 24, 25, 104, 105, 172, 367, 368
河野哲也 12, 27, 36, 38, 138
ゴールドシャイダー 66, 67
ゴールドシュタイン Goldstein, K. 67, 78, 109
コッホ Koch, Ch. 17, 33, 36, 196, 198, 199, 311, 314, 316, 331
コニー 37
コフカ 172
コペルニクス 213
小山虎 37
ゴルトン 66
コント 335

さ

サール Searle, J. 118, 119, 133-135, 207
サイダー Sider, Th. 37, 98, 237, 238
サイレン 60
佐金武 196, 237
佐々木正人 155
佐藤亮司 37, 196, 197, 199
サリー 81
サン＝セルナン 368

ジェイムズ James, W. 19, 24, 32, 66, 87, 97, 151, 174, 210, 211, 213, 214, 217, 218, 221, 235, 236, 240, 248, 250, 251, 274, 283, 300, 302
シモンドン Simondon, G. 342, 347-349, 365
ジャクソン 23, 70-74, 81, 82
ジャンコー Janicaud, D. 357, 366
ジャネ 73, 82
シャルコー 68, 69, 73
シャンジュー Changeux, J.-P. 24, 105, 106, 141, 153
シュテルン Stern, L. 220, 236
ショー Shaw, E. A. 163
ショー Shaw, R. E. 131, 134
ジルソン 337, 361
ジレル Girel, M. 236, 251

スキナー 173
杉村靖彦 367, 368
杉山直樹 38, 237, 363, 368
鈴木生郎 37, 98
ステューデンバーグ 211
ストローソン Strawson, G. 207, 208, 233
スパマー 70, 80
スピノザ 83, 118, 197
スペンサー 73, 81

スポールディング Spaulding, E. G. 209, 233
スミス Smith, W. G. 65-67, 79, 80
スモーリン Smolin, L. 18, 37, 305

ゼノン 128, 287, 304
セリユール 80

ソーカル 36
ゾンマー 66, 70, 80

た

ダーウィン 141
ダ・ヴィンチ 356
高橋宏和 196, 198
谷川卓 37, 98
谷口忠大 36
ダメット Dummett, M. 207, 232, 270
タルヴィング Tulving, E. 24, 38, 93, 94, 100
ダンジガー 76, 80

チェイン Chein, I. 160, 170
チャーマーズ Chalmers, D. 31, 38, 97, 119, 207, 208, 213, 214, 232, 233
チューリング 127, 236

デイントン Dainton, B. 19, 23, 30, 31, 37, 38, 39, 189, 195, 201, 202, 206, 235, 236, 239, 247, 250, 364, 365, 369
テーヌ 202
デカルト 48, 89, 99, 106, 107, 118, 209, 210, 280, 281
デネット Dennett, D. 82, 98, 99, 199, 363
デューイ 37
デューリング During, E. 32-35, 37, 39, 198, 202, 270, 297, 299, 302, 303, 306-310, 337, 361, 368, 370
デュエム 335, 357
デュシャン 356, 362
デリダ 108, 112

ドゥアンヌ Dehaene, S. 18, 33, 100, 141, 153, 171, 172, 220, 311, 314, 316, 325, 331
ドゥゼマール 363
ドゥルーズ Deleuze, G. 21, 36, 52, 54, 63, 76, 96, 228, 273, 288, 299, 339, 342, 344, 346, 356
トノーニ Tononi, G. 18, 33, 36, 232, 311, 314, 316, 331
ドルボー Dolbeault, J. 23, 24, 84, 98, 104, 364
トンプソン 136

な

中島秀之 36

中村雅之 38, 139, 153
難波誠一郎 196, 200

ニーチェ 113
ニュートン 277, 288

ネーゲル 207, 235

ノエ Noë, A. 136
ノッタル Nottale, L. 129, 134
信原幸弘 36, 196, 237
ノラ 112

は

パークリー 44, 118, 124, 135, 213
バース Baars, B. J. 314, 325, 331
パース 37
ハードキャッスル Hardcastle, V. G. 119, 134
バーナード Barnard, W. 21, 38, 211, 215, 223, 225, 233, 234, 239
バイイ Bailly, F. 347, 365
ハイデガー 107, 111-114, 270, 283, 337
バシュラー 108, 275, 365
パスカル 279, 344
バステイアン 69-71
ハッキング Hacking, I. 22, 38, 64, 65, 67, 73, 75-78, 80, 82
拔隊得勝禪師 133, 137
パッティ Pattee, H. H. 183, 196, 199
パトナム 207
パピノー Papineau, D. 99
バルバラス Barbaras, R. 58, 59, 63, 356
バレ 73
バロー Barrow, J. 98

檜垣立哉 16, 35, 268, 367, 368
ピッテンジャー Pittenger, J. B. 131, 134
ピットキン Pitkin, W. B. 209, 233
ヒューム Hume, D. 43, 47, 90, 100, 118, 237, 355
ビュパン 71
平井靖史 29, 35, 37, 39, 62, 135, 172, 175, 195, 197-199, 201-203, 238, 239, 243, 245, 247-249, 250, 268, 362, 364, 365, 367-370
ビラン 107
ピロン 81

ファインマン Feynman, R. 98
ファラデー 120
ファン・フラーセン van Fraassen, B. C. 57, 63
フィッシュ Fish, W. 235, 238
フーコー 22, 64, 65
フェヒナー 66, 80, 172, 173

フェレ 73
フォレスト Forest, D. 78, 162, 170, 174
藤田尚志 24, 28, 35, 104, 165, 170, 362, 363, 367-370
ブチ, ジャン＝リュック 106
フッサール Husserl, E. 19, 32, 48, 49, 61, 62, 106, 107, 111, 114, 189, 219, 224, 235, 236, 246
ブトレマイオス 358
ブライア 268
ブラトン 89, 270, 337, 361
フランソワ François, A. 170, 174, 369
フリーベ Friebe, C. 297, 304
プリブラム Pribram, K. 123, 134, 135
ブルースト 76
ブルーナー Bruner, J. S. 28, 159-161, 170, 172
フレーゲ 369
ブレンターノ 219
フロイト Freud, S. 23, 68-74, 78, 81
ブローカ 23, 67, 68, 70, 72, 80
ブロードベント Broadbent, W. 68, 69, 78
ブロシャール 81
ブロック 18
プロティノス 61
ブンゲ Bunge, M. 98
ベイン Bain, W. 81, 163
ヘーゲル 118, 135, 362
ベッペル Pöppel, E. 28, 238, 250
ヘフティング 81
ヘフディング 234
ヘラクレイトス 288
ペリー Perry, R. B. 209, 233
ベルタランフィ von Bertalanffy, Ludwig 182
ベルネーム 73
ヘルバルト 66
ベンヤミン 107, 112-114

ボアンカレ 335, 351
ボウルビー 364
ボーア 183
ボードレー 107, 112
ボーム Bohm, D. 122, 134, 135
ポパー Popper, K. 24, 87, 90, 95, 97, 99
ボルツマン 183
ホルト Holt, E. B. 151, 209, 233
ホワイトヘッド Whitehead, A. N. 33, 270, 271, 274, 276, 277, 279, 283, 289, 292, 297, 303

ま

マーヴィン Marvin, W. T. 209, 233
マーフィー Murphy, G. 160, 170
マイネルト 23, 68, 70, 71, 81, 82

前野隆司 33, 196, 197, 311, 314, 317, 331
 マクタガート 19, 37, 268, 270, 300
 松尾豊 36
 マッギン 207
 マッスィミニニ Massimini, M. 18, 36, 232,
 311, 314, 331
 マニャン 68
 マラーキー Mullarkey, J. 35, 38, 237, 368
 マラブー 106
 マルクス 110, 362, 363
 マルセル 110

ミケル Miquel, P.-A. 22, 34, 35, 37, 38, 44,
 61, 62, 162, 169, 170, 198, 337, 361-363,
 368, 370
 三宅岳史 22, 23, 35, 38, 306, 332
 宮本省三 105
 ミュラー Müller, G. E. 65-67, 78
 ミュンスターバーグ 66, 67
 ミヨー 335
 ミラヴェット Miravète, S. 28, 29, 35, 39,
 159, 166, 167, 170, 172-174, 250, 364
 ミンターン Minturn, A. L. 159, 170

ムータン 83
 ムザッティ 126
 ムンク 70, 82
 メイヤスー 356
 メーリ 68
 メルロー＝ポンティ Merleau-Ponty, M. 16,
 19, 27, 35, 43, 49, 62, 138, 153, 305, 342

モーガン Morgan, L. 46, 61
 モーズレイ 81, 82
 望月太郎 368
 モレレ Morellet, F. 356
 モンタギュー Montague, W. P. 209, 233
 モンテヴィル Montévil, M. 347
 モンテベロ Montebello, P. 165, 170, 356,
 364

や
 八木沢敬 37

ユークリッド 350, 351
 ユクスキュル 25, 199

吉田正俊 196, 197
 ヨナス 358

ら
 ライブニッツ 29, 37, 83, 118, 120, 150,
 272, 310, 364
 ライル Ryle, G. 98

ラッセル Russell, B. 47, 61, 208-213, 233,
 234, 337
 ラビエ 81
 ラプラス 280, 283
 ラメット Ramette, Ph. 357
 ランゲ 66, 67
 ランシエール 340, 362
 ランジュヴァン Langevin, P. 289, 292, 293,
 302, 303, 309, 351, 354, 365
 ランボー 365

リキエ Riquier, C. 101, 102, 104, 297, 363,
 369
 リクール Ricœur, P. 24, 25, 105-113, 116
 リヒトハイム Lichtheim, L. 68-70, 78
 リベット Libet, B. 24, 36, 90-92, 100, 314,
 331
 リボア Ribot, Th. 23, 73-75, 79, 81, 82, 163
 リュイエ Ruyer, R. 342, 346, 364
 リンズ Lynds, P. 129, 134

ルチアーニ Luciani, L. 163
 ルヌヴィエ 29, 114, 166-168, 174
 ル・ロワ Le Roy, E. 338, 361

レヴィナス 113, 116
 レヴィ＝イルブロン 356, 357, 366, 368
 レヴィン 160, 172
 レーニン 341, 363
 レーマン 81

ロヴェリ 305
 ローゼンツヴァイク 61, 113
 ローゼンバーグ Rosenberg, A. 45-46, 61
 ローゼンフィールド Rosenfield, I. 67, 79, 80,
 96
 ロック 209, 210
 ロッツェ 66
 ロバートソン 73
 ロビンス Robbins, S. E. 25-27, 118, 134,
 139, 153, 155, 364
 ロンゴ Longo, G. 347, 355, 365
 ロンベルク 80

わ
 ワイル 296
 ワトソン 172

欧 文

Adelson, E. 134, 135
 Albera, F. 297
 Alter, T. 233
 Andersen, P. B. 196
 Antonietti, A. 95
 Arstila, V. 37, 195
 Balashov, Y. 297, 304
 Bardon, A. 37, 195
 Basios, V. 331
 Batthyany, A. 100
 Bayes, Th. 324, 331
 Beebee, H. 98
 Bernard, D. 68, 78
 Braddon-Mitchell, D. 195, 202, 301
 Brainerd, C. J. 172
 Bruntrup, G. 233
 Callender, C. 37, 195
 Carroll, J. 97
 Christiansen, P. V. 196
 Churchland, P. 98
 Cicurel, R. 134
 Coleman, S. 234
 Corradini, A. 95
 Craig, W. L. 268
 Crane, T. 232
 Delacour, J. 100
 Desgrange, B. 100
 De Warren, N. 236
 Dyke, H. 195
 Elitzur, A. 100
 Emmeche, C. 196
 Eustache, F. 100
 Fédi, L. 166, 170
 Finnerman, M. O. 196
 Forzy, G. 35
 Fraisse, P. 161, 170
 Friedman, W. J. 269
 Gallagher, S. 35
 Gallois, Ph. 35, 78
 Goodale, M. 176-178, 195-197
 Gunter, P. A. Y. 35
 Haffenden, M. 195, 197
 Hawthorne, J. 98
 Haynes, J.-D. 100
 Heidelberger, M. 78, 80
 Hoerl, Ch. 269
 Isa, T. 196
 Jaffard, P. 78
 Jaskolla, L. 233
 Jeager, W. 361
 Jones, N. 196, 199
 Kandel, E. 100
 Kane, R. 100
 Kelly, M. R. 35, 238

Kincaid, H. 37
 Kreps, D. 20, 38
 Ladyman, J. 37
 Landau, K. R. 269
 Lavazza, A. 95
 Lee, G. 237
 Leeper, R. 160, 170
 Lewis, D. 98
 Lloyd, D. 37, 195
 Lowe, J. 95
 McCormack, T. 269
 Meixner, U. 95
 Mele, A. 100
 Milner, D. 176-178, 195-197
 Missa, J.-N. 100
 Moeli, C. 68, 78
 Morgan, C. L. 363
 Naccache, L. 314, 331
 Nagasawa, Y. 233
 Nahmias, E. 100
 Nicolelis, M. 134
 Nieder, A. 171, 172
 Oaklander, N. 37
 O'Connor, T. 100
 Papanicolaou, A. C. 35
 Pearson, K. A. 237
 Pelczar, M. 237
 Penrose, R. 98
 Perilloux, H. K. 269
 Planck, M. 98
 Povinelli, D. J. 269
 Reyna, V. F. 172
 Robinson, H. 39, 95
 Ross, D. 20, 37
 Sandis, C. 100
 Schaffer, J. 98
 Schmicking, D. 35
 Schumann, F. 65
 Simoncelli, E. 134
 Skrbina, D. 233
 Skwartzoff, N. 68, 79
 Sonoda, K. 331
 Soon, C. S. 100
 Swinburne, R. 95
 Tooley, M. 97
 Tortajada, M. 297
 Walker, H. 100
 Weiskrantz, L. 196, 197
 Weiss, Y. 134, 135
 Winnie, J. 303
 Wishon, D. 233
 Wolfe, C. 236
 Wright, E. 160, 171
 Zahavi, D. 16, 35
 Zimmerman, D. 98

事項索引

カナ表記ブレは代表的なものにまとめた。

あ

アフォーダンス 25, 143, 144, 148, 151, 154-156, 158
アレクサンドロフ間隔 293, 303

意識 18, 19, 21, 25, 28-31, 36, 37, 47-50, 53-59, 62, 63, 80-83, 86, 87, 91-93, 97, 99-101, 103, 127, 136, 137, 141, 145, 150, 164-166, 174-176, 178, 182, 187, 189, 193, 198-201, 203, 206-214, 216-225, 230-233, 235-238, 240-242, 248-250, 256, 258, 266, 272, 273, 277, 282, 284, 285, 295, 296, 304, 306, 308, 310, 312, 314-318, 328, 330, 346, 349, 352, 353, 356, 362, 365, 367

意識の科学 17, 19, 367

異質的（異質性） 35, 57, 188, 191, 250, 272, 275, 287

一元論 30, 57, 107, 155, 206, 208, 210, 211, 213, 215, 233, 328, 338

一性質→「第一性質」を見よ

移動スポットライト説 300, 301

イメージ, イメージ 22, 25-27, 29, 51-57, 62, 65-67, 73, 74, 80, 93, 96, 97, 101, 103, 108-112, 114, 118-120, 122-124, 135, 139, 140-142, 144, 147, 154-157, 162-165, 173-175, 178-182, 191-193, 197-199, 201, 202, 210, 254, 258, 267, 282, 285, 299, 300, 317, 318, 321, 322, 328, 341, 342, 356, 365

意味論 28, 38

因果の閉包性 23, 24, 46, 89, 99

運動図式 28, 38, 68-70, 72, 73, 80, 162-165, 174, 179, 197, 201, 203

永久主義 19, 31, 227, 228, 273, 279, 280, 283, 284, 296, 299, 304, 307, 349, 366

英米系 19, 30

A理論 19, 286, 288, 300, 301 → 「時制理論」も見よ

エナクション, イナクション, エナクティヴィズム等 25, 130, 133, 136, 359

エビジュネティクス 358

エピステモロジー 22, 271, 309, 342, 354, 364

エピソード記憶 144, 150, 163, 173, 177, 180

遠隔の過去 175, 190-193, 203, 254

延長主義（モデル） 19, 30, 37, 189, 201, 219-224, 226, 228, 236, 237, 239, 245, 247, 249

奥行き 27, 147-149

遅さ 18, 234 → 「遅延」も見よ

か

階層 45-47, 116, 176, 203, 234, 346

外的名称規定 29

科学（的）形而上学 20, 31, 36, 37

科学認識論→「エピステモロジー」を見よ

拡張 44, 50, 54, 59, 63, 138

拡張バルクソン主義 338-340, 355, 359

過去 17, 23, 27-31, 35, 38, 39, 77, 85, 86, 88, 96, 101, 103, 114, 127, 132, 143-145, 147-152, 156, 157, 175, 180, 184, 185, 190-193, 202, 216, 219, 224, 226-231, 234, 237, 249, 252-254, 258-263, 266, 267, 269, 273, 279-288, 299-304, 307, 309, 318-320, 322, 327, 329, 341, 349 → 「遠隔の一」「潜在的一」「直接の一」も見よ

仮構 354, 357, 358, 366 → 「作話」も見よ

過去実在論 31, 252

感覚質 16, 26, 28, 30, 38, 175, 184, 185, 188-192, 199, 202, 211, 214, 238, 240-242, 246-248, 250 → 「クオリア」も見よ

還元 59, 183, 184, 207, 232, 241, 328, 345, 346, 353

環世界 25, 197, 199

観念論 22, 29, 48, 49, 119, 140, 165, 202, 213

記憶 17, 21-25, 27, 29, 31, 33, 34, 37, 38, 51, 64-77, 80-82, 84, 85, 88, 92-94, 96, 101, 102, 105, 106, 110, 112-115, 126, 128, 129, 137-139, 141-145, 147, 150-152, 156, 157, 162-164, 173, 178-181, 185, 186, 188, 190-192, 197-203, 211, 219, 220, 223-225, 228, 231, 234, 236, 237, 239, 249, 250, 252-255, 258-261, 267, 280, 282, 285, 301, 307, 311, 312, 316, 318-323, 326-330, 347, 358, 359, 364

機械論 76, 99, 345, 355

機能主義 86, 207, 232

機能的知覚 26, 29, 177, 178
 逆円錐、逆円錐図 34, 145, 254, 307, 322, 325, 326, 328, 344
 逆ベイズ推論 33, 311, 312, 323, 325-327, 330, 332, 334-336
 共時性(的) 32, 33, 236, 285, 289-293, 303, 351, 352
 凝縮 28, 30, 115, 137, 180, 181, 184, 188-192, 199, 201-203, 241, 242, 246, 248, 250, 285, 351 → 「収縮」「縮約」も見よ
 共存 32, 168, 229, 270, 272, 273, 278, 285, 286, 288-291, 293, 295, 296, 301, 306-309, 353, 354
 局在論(説) 22-24, 64, 67, 68, 70-74, 80-82, 96, 180
 虚構 32, 358

 クオリア 16, 19, 26, 27, 87, 118-120, 130, 175, 184-186, 189, 190, 201, 313, 317 → 「感覚質」も見よ
 組み合わせ問題 31, 213, 314
 グローバルワークスペース 33, 325, 334

 形而上学 15, 16, 19-21, 27, 28, 31, 34, 35, 37, 44-46, 75-77, 82, 83, 98, 128, 138, 139, 142, 144, 150, 155-157, 165, 174, 181, 200, 211-213, 217, 227-229, 232, 239, 247, 268, 279, 287, 302, 310, 335, 337, 338, 340, 341, 344, 345, 349, 350, 354, 355
 形相因 38
 計測(測定) 32, 91, 186, 187, 271, 272, 275, 277, 289, 290, 293, 295, 303, 351-354, 365
 ゲシュタルト 161, 172, 173
 言雲(げんうん) 25, 114-116
 現在 23, 25, 27, 30, 39, 67, 85, 96, 101, 102, 128, 129, 143, 145, 147-149, 151, 152, 157, 158, 166, 175, 186, 190-193, 197, 216, 217, 219, 220, 222, 224, 226, 228-230, 234-237, 239, 252-254, 257-260, 267, 269, 273, 279-286, 288, 290, 292, 293, 299-304, 307, 309, 318-320, 322, 323, 329, 349
 現在主義 19, 227-229, 231, 273, 279, 280, 283, 284, 286, 296, 299, 307, 349, 366
 減算 25, 197, 198
 見者 356, 365
 現象学 16, 18, 19, 35, 44, 48, 49, 62, 107, 136, 138, 235, 277, 292, 293, 339, 340, 346, 356
 現象の意識 18, 207
 現象の知覚 26, 177, 178, 180
 現象の統一 225
 現働的 190, 201, 202, 347, 349

交会測量法 363
 光学 26, 120, 127, 157, 342
 恒常的連接 90
 構成論的アプローチ 18
 行動主義 86, 161, 172, 207, 232
 固有時 33, 277, 289-291, 293-296, 303, 308, 309, 352, 354
 混合 126, 166, 179, 341, 344 → 「複合」も見よ

さ

再認 16, 29, 67, 81, 82, 157, 163, 176-178, 197, 311, 312, 318, 319, 329
 作話 25, 111, 112, 114-116 → 「仮構」も見よ
 座標時間 287, 288, 291, 292, 296, 352, 353

弛緩 17, 234, 274, 322, 351, 364
 時間 15, 17-21, 23, 27, 30-32, 96, 103, 107, 111, 120, 127-133, 146, 149, 156, 157, 166, 168, 174, 175, 184-186, 188, 189, 199-201, 203, 206, 216-218, 221, 225-227, 230, 231, 234, 238, 239, 242-244, 248, 254, 256, 257, 259, 260, 262, 268, 270-279, 281, 282, 284-296, 299-310, 312, 316, 326, 336, 349, 354, 364, 365
 時間意識 30, 31, 217, 235, 239, 240, 248, 249, 266, 277
 時間スケール→「タイムスケール」も見よ
 時間存在論 29, 30, 37, 190, 268, 350
 時間単位 28, 29, 39, 165-168, 172, 174, 175, 187-189, 201, 243
 時間的延長 31, 175, 184-186, 188, 189, 192, 193, 199, 220, 228, 229, 236, 242, 249
 事実の線 180, 340-343, 345, 350, 351, 359, 363, 364
 システム 30, 36, 61, 98, 147, 160, 162, 175, 176, 178, 181-193, 197, 199-202, 208, 239, 318, 319, 347, 349, 356, 365
 システム論 30, 181-183
 ジスト 180, 198, 199
 時制 31, 237, 279, 286, 296, 300, 301
 時制理論 296, 300
 自然法則 24, 87-90, 149, 283
 持続 16, 28, 29, 32, 35, 39, 112, 136, 148, 150, 151, 155, 157, 165-168, 172, 185-189, 200, 201, 206, 211, 212, 215-217, 223-226, 228, 229, 234, 235, 237, 238, 240-243, 247, 250, 271-278, 281, 286-293, 295, 296, 300, 302, 303, 306-310, 313, 316, 318, 338, 346, 348, 350-355, 364, 366

失語症 16, 23, 25, 65, 68-72, 74, 75, 81, 82, 96, 115
 実在時, 実在の時間 33, 272, 273, 289, 290, 292, 308, 309, 347, 351, 352, 365
 実在論 22, 26, 30, 38, 119, 140, 210, 235, 252, 254, 266, 267
 実証的形而上学 15, 20, 340, 356, 367
 質の多様 32, 255, 257, 258, 261, 267, 268, 353
 失認 16, 29, 176, 177
 自動的再認 29, 175, 177, 178, 197
 自動保存 191, 202, 252-255, 258, 260, 267, 284 → 「それ自体で保存」も見よ
 自由 17, 19, 36, 86, 97, 99, 101-103, 107, 162, 192, 201-203, 268
 収縮 136, 229, 237, 239-245, 247, 248, 250, 282, 285, 322, 326 → 「凝縮」「縮約」も見よ
 縮約 241, 242, 247, 248, 250, 285 → 「凝縮」「収縮」も見よ
 受動意識 311, 312, 314, 317, 328
 瞬間 27, 29, 91, 128, 129, 132, 137, 147, 166, 184-190, 192, 197, 200-202, 209, 217-221, 224, 227, 229, 240, 241, 243, 245-249, 253, 263, 274, 276, 279-283, 285-291, 293, 294, 300, 303, 312, 340, 344, 353
 順序 32, 46, 255-261, 267, 278, 292, 293, 296, 307, 320, 329
 純粹記憶 24, 25, 27, 28, 30-33, 66, 85, 96, 103, 104, 110-112, 114, 115, 143-145, 150, 152, 156, 157, 163, 164, 174, 228, 281, 307, 320, 329, 334
 純粹持続 31, 32, 256-259, 289, 341
 純粹知覚 29, 33, 132, 137, 175, 181, 197, 250, 312, 318, 320, 322-324, 334, 355, 362
 情報 30, 38, 93, 124-126, 130, 141, 142, 144, 160, 179, 197, 198, 208, 312-315, 317, 324-326, 328, 355, 365
 情報理論 18, 36
 進化論 24, 154, 158, 179, 347
 神経科学 16, 20, 28, 92, 120, 127, 179, 350
 神経相関 92
 人工知能 17, 33, 36, 80, 311, 330, 332, 334, 335, 367
 心身問題 15, 19-24, 31, 35, 38, 82, 107, 211
 深層学習 17 → 「ディープラーニング」も見よ
 心理学 16, 23, 24, 27, 38, 45-50, 64-66, 71, 73, 74, 80, 81, 93, 94, 138, 139, 142, 144, 147, 150, 154, 156, 157, 159-161, 163, 164, 169, 172, 174, 180, 185, 219, 225, 281, 301, 353, 358, 359

随伴現象 87, 91, 97, 197, 208, 232

スーパーヴィーニエンス 46, 345, 364

性質二元論 85, 96, 232

精神物理学 80, 161, 166, 172, 173

生態学 22, 25-27, 139, 144, 197

成長ブロック (宇宙) 説 39, 202, 227, 229, 231, 277, 286, 287, 300

生の哲学 31

生物学 16, 26, 45-47, 59, 80, 86, 103, 106, 139, 156, 158, 347, 355, 358, 364

生理学 103, 109, 175, 179, 181, 348

潜在性(的) 27, 66, 97, 102, 109, 111, 115, 123, 130, 138, 144, 145, 148-152, 157, 175, 190, 193, 203, 273, 285, 289, 302, 307, 329, 347, 349, 362

潜在的過去 30, 189, 192, 201, 203

全体論 70, 74, 213, 237, 328

選択有利性 24, 87

想起 16, 24, 38, 64-66, 88, 106, 109, 110, 112, 139, 147, 157, 190-192, 197, 203, 216, 312, 318-321, 323, 326, 328, 329

相互作用説 23, 24, 85-87, 89

相互浸透 29, 166, 180, 256, 257, 267, 273, 319

相対性(的) 181, 291, 292, 294, 353
 相対性理論, 相対論 32, 33, 128, 129, 131, 272, 274, 277, 290, 292, 293, 303, 304, 306-310, 350, 353, 355

創発 20, 46, 119, 213, 270, 279, 337, 345, 348, 346

走馬燈 341

測定 → 「計測」を見よ
 速度 28, 125, 130, 165, 234, 241, 277, 302 → 「速さ」も見よ

それ自体で保存, 即自的保存 31, 253, 341

存在論 19, 25, 27, 28, 30, 35, 44, 52, 60, 88, 135, 149, 151, 165, 166, 168, 169, 172, 175, 181, 182, 184-186, 190, 192, 193, 202, 229, 230, 238, 273, 276, 280, 283, 286, 287, 342, 344, 346, 348, 351, 355, 356

ゾンビ 36, 177, 314

た
 第一 (一次) 性質 46, 140, 208

第二 (二次) 性質 46, 63, 140, 184, 209, 231

タイム (時間) スケール 17, 18, 29, 30, 36, 130-133, 137, 175, 180, 184, 189, 199, 240, 249, 364

大陸系 16, 19

多元論 32

脱相関化 54, 55, 57, 58, 356, 365

遅延 18, 175, 277, 348 → 「遅さ」も見よ

知覚 15-17, 22, 23, 25-28, 30, 33, 34, 43, 44, 51, 53, 55, 67, 73-75, 81, 83, 85, 86, 93, 96, 97, 100, 102, 111, 112, 114, 118, 119, 135, 136, 138-150, 154-157, 159-166, 168, 169, 172-175, 177-188, 190-193, 197-202, 209, 211, 212, 215, 220, 224-226, 203, 233-235, 237-239, 250, 252, 253, 258, 259, 282, 284, 307, 311-317, 320, 322, 325-328, 330, 359, 362, 365
 注意的再認 29, 67, 178-180, 190, 192, 197, 201
 中立一元論 30, 206, 210, 211, 215, 233, 239
 直接実在論 26, 28, 29, 31, 118, 119, 133, 140, 181, 184, 211, 213, 215, 231, 234, 238, 240, 243, 247
 直接想起説 191
 直接的（近接）過去 184-186, 189, 190, 192, 193, 201, 203, 224, 248, 249
 直観 48, 60, 63, 172, 190, 215, 270, 271, 275, 276, 338, 339, 342-344, 359, 361, 363, 364
 ディープラーニング 17, 36 →「深層学習」も見よ
 出来事 27, 28, 30-32, 56, 60, 96, 99, 113, 132, 144, 146, 147, 149-151, 190, 191, 202, 210, 212, 218, 222, 226, 228, 229, 231, 232, 249, 252, 254, 255, 258-269, 272, 281, 289, 291-293, 296, 303
 出来事個体 28, 30, 31, 262-267
 デジャヴュ 33, 157, 198, 307, 311, 312, 318, 320, 322, 329, 341
 手続き 162, 163, 173, 177-179
 手続き型記憶 173, 177, 178
 転導的 365
 同一説, 同一性理論 86, 97, 207
 統合情報理論 36
 同時性（的） 28, 33, 130, 168, 200, 202, 219, 220, 236-238, 246, 248, 249, 252, 253, 257, 272, 273, 276, 278, 285, 286, 288, 289, 291-296, 299-303, 307, 309, 310, 314, 351-354
 等質的 39, 187, 256
 投射, 投影 26, 29, 33, 38, 39, 80, 190, 192, 193, 202, 249, 316, 346
 動的（力動的）図式 103, 106

な

内在平面 52-54, 56
 内部観測 33
 流れ 18, 32, 81, 125, 126, 149, 151, 156, 157, 165, 201, 216-218, 220-225, 227, 234, 235, 237, 238, 248, 249, 271, 274-

277, 281, 288, 290, 294, 296, 299, 300, 303, 306-308, 328, 349, 352, 353

二元論 23, 38, 51, 57, 84-87, 89-92, 95, 96, 99, 107, 140, 165, 208, 214, 232, 328, 363, 364

二次性質→「第二性質」も見よ

二重視覚システム 29, 176

二重知覚, 二重再認 29, 175, 177, 239

二重プロセス 18

認知科学 16, 25, 28, 33, 36, 80, 138, 139, 159, 172, 174-176, 197, 207, 232, 311

認知神経科学 18, 177, 367

認知心理学 18, 28, 159, 161, 172, 173, 367

脳科学 106, 156, 311, 328, 330

は

バースペクティブ 33, 54, 55, 57, 272, 273, 282, 283, 286, 289, 290, 293, 294, 296, 301, 304, 305, 307-310, 346, 347, 349, 352, 353, 355

ハード・プロブレム 19, 27, 118, 119, 130, 140

バイアス 21, 30, 31, 358

排中律 22, 50, 52, 57, 62, 349

ハイブリッド成長宇宙説 30, 190, 193

把持主義 19, 30, 31, 189, 201, 219, 220, 224, 225, 235-237, 239, 246, 249

速さ 126, 166, 264 →「速度」も見よ

パラサイエンス 358

パラメータ時間 352

汎質主義 31, 38, 214, 215, 232, 233

汎心論 22, 23, 31, 86, 88, 89, 98, 132, 133, 136, 208, 213, 240, 242, 243, 247

反応遅延 16, 18, 36, 37

反復 32, 66, 137, 144, 146, 161, 162, 165, 212, 222, 223, 255, 260, 268, 282, 317, 321-323, 329, 330, 347, 348

B 理論 19, 300, 301 →「非時制理論」も見よ
 非時制理論 296

日付 32, 252, 254, 255, 257-262, 265-268

ヒューリスティクス 33

表象 16, 19, 24-26, 33, 60, 63, 71, 72, 74, 85, 86, 96, 119, 135, 136, 139-141, 144, 160-162, 166, 173-175, 177-180, 192, 197, 199, 201, 209, 212, 215, 218, 219, 249, 266, 267, 285, 288, 312, 315, 316, 328, 341

ファイバー時間 33, 293, 294, 296, 303, 304

フィクション 228

複合 30, 178, 190, 220 →「複合」も見よ

付随現象→「随伴現象」も見よ

物理法則 99, 127
不変項 27, 142, 149
普遍者 24, 88
プライミング 33, 316, 317
フラクタル 129
ブロック宇宙 18, 33, 39, 190, 227, 294,
300, 304, 309
分子 47, 92
分子生物学 355, 358
分析形而上学 15, 17-19, 30, 37, 199, 367,
369
分析哲学 19, 21, 23, 30, 37, 39, 45, 206,
207, 227, 232, 234, 273, 339, 349, 350

並行論（心身並行論） 81, 83, 364
ベイズ推論 33, 312, 323-327, 330, 332-336
併発 279, 364

法則 42, 47, 89, 116, 131, 173, 208
ポスト構造主義 20
ホログラム 26, 118, 121-124, 127, 129,
130, 132, 133, 155, 157
本性の差異 33, 181, 184, 189, 212, 281,
283, 284, 288, 299, 301, 307, 349

ま
見かけの現在 31, 217, 219, 221-226, 235-
237, 283
未来 27, 28, 36, 101, 103, 144, 148, 149,
152, 216, 219, 224, 227, 228, 237, 259,
260, 279, 282, 283, 287, 299, 300, 303,
304, 349

ミンコフスキー時空 303, 354

結びつけ問題 24, 26, 33, 93, 100, 314, 315

メタ形而上学 20

盲視 29, 176, 197
目的論 35, 102, 345
モナド 120, 310

や

唯心論 51, 83
唯物論 19, 83, 140

四次元主義 19, 39, 202, 227, 294, 304, 350,
352

ら

リズム 165, 166, 174, 187, 188, 211, 212,
234, 241, 302, 351, 357, 364
理論負荷性 33
量子力学 355

ループ量子重力理論 18

歴史 21, 24, 25, 27, 30, 105, 107, 110-114,
127, 132, 137, 155, 207, 213, 263, 329
連合主義 81, 198

わ

私の現在 189, 217, 229, 248, 249

●著者紹介（掲載順）

ポール＝アントワヌ・ミケル（Paul-Antoine Miquel） トゥールーズ大学・教授。現代哲学、フランス哲学、生物学の哲学。1959年生。主な著書に *Sur le concept de nature* (hermann, 2015), *Bergson dans le moroir des sciences* (Kimé, 2014)。

三宅 浩史（みやけ・たけし） 香川大学教育学部・准教授、博士（文学）。哲学、西洋哲学史（フランス近代）、科学史。1972年生。『ベルクソン哲学と科学との対話』（京都大学学術出版会、2012年）。

ジョエル・ドルボー（Jöel Dobeault） パリ・ガロワ高等学校教諭。心の哲学、物理学の哲学。1966年生。“Mind and Matter: How Bergson Anticipated Quantum Ideas”, in *Mind and Matter*, Vol. 10 (1), 2012.

合田正人（ごうだ・まさと） 明治大学・教授。西洋／日本思想史、倫理学、ユダヤ思想専攻。1957年生。『思想史の名脇役たち』（河出書房新社、2014年）、『フラグメンテ』（法政大学出版局、2016年）。

ステイーヴン・E・ロビンズ（Stephen E. Robbins） 知覚と意識の理論。1946年生。最近の業績として、“Analogical Reminding and the Storage of Experience: The Hofstadter-Sander Paradox”, *Phenomenology and the Cognitive Sciences*（近刊）。

河野哲也（こうの・てつや） 立教大学文学部・教授、博士（哲学）。哲学・倫理学、現象学、心の哲学、教育哲学、哲学プラクティス。1963年生。『現象学的身体論と特別支援教育——インクルーシブ社会の哲学的探究』（北大路書房、2015年）、『いつかはみんな野生にもどる——環境の現象学』（水声社、2016年）。

檜垣立哉（ひがき・たつや） 大阪大学人間科学研究科・教授。哲学、現代思想。1964年生。『西田幾多郎の生命哲学』（講談社、2011年）、『瞬間と永遠——ジル・ドゥルーズの時間論』（岩波書店、2010年）。

セバスチャン・ミラヴェット（Sébastien Miravète） トゥールーズ大学・講師、博士（哲学）および博士（心理学）。現代フランス哲学、存在論、科学哲学、認識論。1981年生。Pierre Montebello との共編による *Bergson, La Pensée et le mouvant* (Flammarion, 2014)。

バリー・デイントン（Barry Dainton） リバプール大学・教授。形而上学および心、意識、自己の哲学。1958年生。*The Phenomenal Self* (Oxford University Press, 2008), *Time and Space* (Routledge, 2nd edition 2010)。

岡嶋隆佑（おかじま・りゅうすけ） 慶應義塾大学文学研究科・哲学倫理専攻（哲学分野）博士課程、日本学術振興会特別研究員（DC1）。哲学。1987年生。「ベルクソンにおける知覚の諸相」（『哲学』三田哲学会、2015年）。

伊佐敦隆弘（いさしき・たかひろ） 日本大学経済学部・教授、博士（文学）。哲学的時間論、分析形而上学、ウィトゲンシュタイン研究。1956年生。『時間様相の形而上学——現在・過去・未来とは何か』（勤草書房、2010年）。

エリー・デューリング（Elie Düring） パリ第10大学・准教授。現代フランス哲学、物理学の哲学、時空の形而上学。1972年生。最近下記校訂版を出版した。Paul Langevin, *Le Paradoxe des jumeaux : deux conférences sur la relativité* (Nanterre, Presses universitaires de Paris Ouest, 2016)。

郡司ベギオ幸夫（ぐんじ・べぎお・ゆきお） 早稲田大学基幹理工学部・教授、博士（理学）。理論生命科学。1959年生。主な著書に、『いきものとなまものの哲学』（青土社、2014年）。

●訳者紹介（掲載順）

米田翼（よねだ・つばさ） 大阪大学人間科学研究科博士後期課程、日本学術振興会特別研究員 DC。哲学、生物学の哲学、科学思想史。1988年生。「ベルクソンとヴァイスマンの遺伝論」（『フランス哲学・思想研究』第21号、2016年）。

木山裕登（きやま・やすと） 東京大学、トゥールーズ ジャン・ジョレス大学、博士課程（哲学）。フランス哲学。1987年生。「ベルクソン「意識の諸平面」概念の心理学的背景」（『論集』34、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2014年）。

山根秀介（やまね・しゅうすけ） 舞鶴工業高等専門学校・助教。哲学、宗教哲学、プラグマティズム。1987年生。「ウィリアム・ジェイムズの多元的存在論とベルクソンの持続的存在論」（『宗教哲学研究』第33号、2016年）。

清塚明朗（きよづか・あきお） 関東学院大学他・非常勤講師、修士（文学）。哲学・倫理学、近現代フランス思想。1983年生。「ベルクソン直観論における明晰性について」（『フランス哲学・思想研究』、2014年）。